

アドビ認定プロフェッショナル対応 Photoshop 2021 試験対策

テキスト差分解説



2021年6月に資格名称がアドビ認定アソシエイト「Adobe Certified Associate (ACA)」から「アドビ認定プロフェッショナル (Adobe Certified Professional)」へ変更になりました。

2022年5月
株式会社オデッセイ コミュニケーションズ

テキスト差分解説

はじめに

アドビ認定プロフェッショナル (Adobe Certified Professional) ※は、アドビが認定する Adobe Photoshop や Adobe Illustrator など、アドビのアプリの利用スキルを証明する国際資格です。

※2021年6月に資格名称がアドビ認定アソシエイト「Adobe Certified Associate (ACA)」から「アドビ認定プロフェッショナル (Adobe Certified Professional)」へ変更になりました。

本資料「テキスト差分解説」について

本資料は、アドビ認定プロフェッショナルの「Visual Design using Adobe Photoshop 2021 (v22.x)」試験の学習を、書籍「ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策」を使用して行う際の相違点および差分を抜粋してまとめたものです。Photoshop CC 2015 以降の新機能をすべて網羅するものではありません。

学習環境について

本資料は、以下の環境での画面および操作方法で記載しています。環境によっては、本資料と画面の表示が異なる場合や、記載の操作が行えない場合があります。あらかじめご了承ください。

- OS : Windows 10 Pro (64ビット)
- アプリケーションソフト : Adobe Photoshop 2021 (v 22.5.1)

アドビ認定プロフェッショナルに関する情報はこちらから

公式サイト <https://adobe.odyssey-com.co.jp/>

- 株式会社オデッセイ コミュニケーションズは、本資料および対策テキストの使用によるアドビ認定プロフェッショナルの合格を保証いたしません。
- アドビ認定プロフェッショナル (Adobe Certified Professional) 、Adobe Certified Professional ロゴ、Photoshop は、Adobe Inc. (アドビ) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- その他、本文中に記載されている会社名、製品名は、すべて関係各社の商標または登録商標、商品名です。
- 本文中では、™マーク、®マークは明記しておりません。
- 本資料に掲載されている全ての内容に関する権利は、株式会社オデッセイ コミュニケーションズ、または、当社が使用許諾を得た第三者に帰属します。株式会社オデッセイ コミュニケーションズの承諾を得ずに、本資料の一部または全部を無断で複写、転載・複製することを禁止します。
- 本資料に掲載されている情報、または、本資料を利用することで発生したトラブルや損失、損害に対して、株式会社オデッセイ コミュニケーションズは一切責任を負いません。

試験の出題範囲と本書の対応

『Visual Design using Adobe Photoshop 2021 (v22.x)』の出題範囲と「ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策」で解説している対応表です。学習の参考にしてください。

大分類	小分類	対応する章
1.0 デザイン業界で働く	1.1 画像作成の目的、対象者、対象者のニーズを特定する 1.2 デザインプランについて同僚や顧客とコミュニケーションをとる 1.3 特定の内容を使用するために必要な著作権、許可、ライセンスの種類を特定する 1.4 デジタル画像に関する主な用語についての知識を示す 1.5 デザインの基本原則、およびビジュアル デザイン業界におけるベストプラクティスについての知識を示す	3 章 11 章
2.0 プロジェクトの環境設定と インターフェイス	2.1 ウェブ用、印刷用、動画用ドキュメントを適切な設定で作成する 2.2 アプリケーションのワークスペースを切替える、整理する、カスタマイズする 2.3 印刷されないデザインツールを画面に表示して、デザインや作業を行いやすくする 2.4 プロジェクトにアセットを取り込む 2.5 色、スウォッチ、グラデーションを管理する 2.6 ブラシ、スタイル、パターンを使用して作業を行う	2 章 4 章 8 章
3.0 ドキュメントの整理	3.1 レイヤーを使用してデザイン要素を管理する 3.2 不透明度、描画モード、マスクを使用してレイヤー表示を変更する 3.3 デザイン要件を満たすために、破壊的編集方法と非破壊的編集方法の違いを識別し、それぞれの方法で編集を行う	7 章
4.0 視覚的要素の作成と変更	4.1 主要なツールや機能を使用してビジュアル要素を作成する 4.2 適切なタイポグラフィの設定を使用してテキストを追加する、操作する 4.3 選択範囲を作成する、管理する、操作する 4.4 デジタル画像やメディアを変換する 4.5 再構成やレタッチの基本的技法を使ってデジタル画像やメディアを操作する 4.6 フィルターやスタイルを使用してデザイン要素のアピアランスを変更する	3 章 5 章 6 章 7 章 8 章 9 章
5.0 デジタルメディアの公開	5.1 ウェブ用、印刷用、動画用の画像を準備する 5.2 デジタル画像をさまざまなファイル形式に書き出し、保存する	10 章

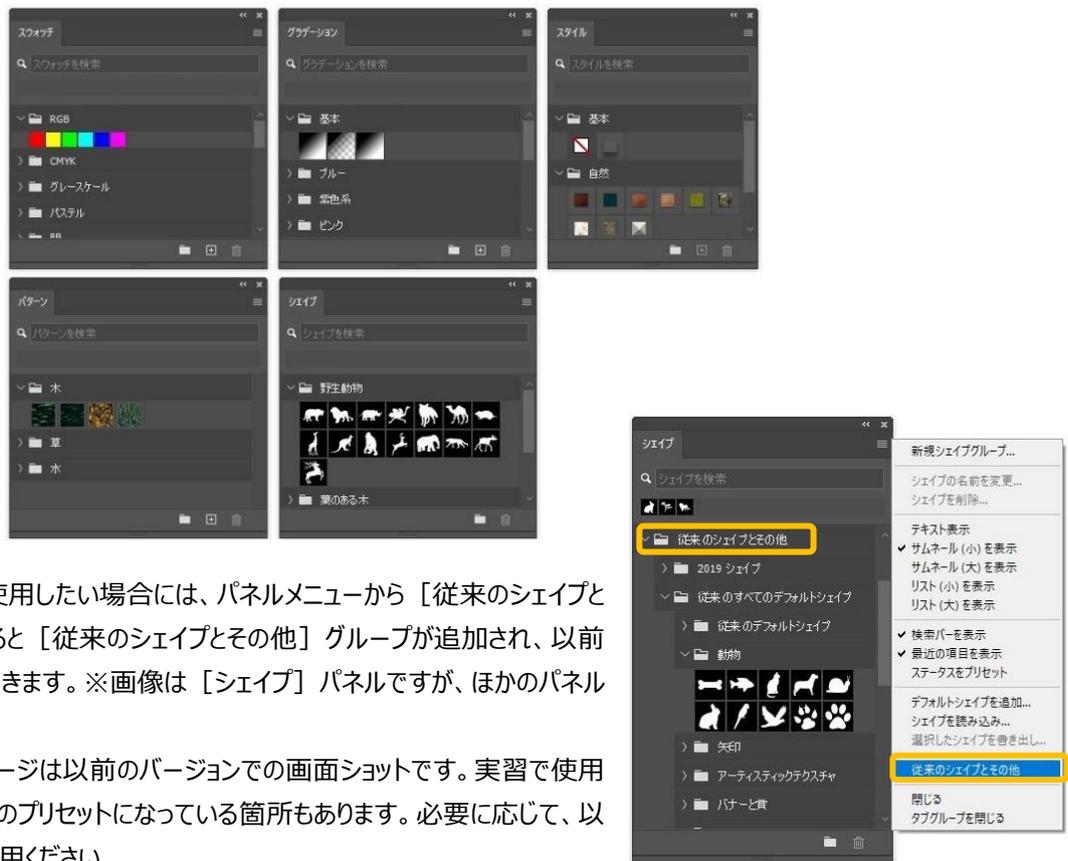
属性パネルの名称変更

【属性】パネルの名称が、【プロパティ】パネルに変更されました。
 ※画像は、カラーバランスの調整レイヤーの【プロパティ】パネルです。パネルの内容や設定オプションは、選択されているオブジェクトによって変わります。



プリセットの改善

プリセットが新しく定義し直され、【スウォッチ】・【グラデーション】・【スタイル】・【パターン】・【シェイプ】パネル内のプリセットがグループ管理されるようになりました。



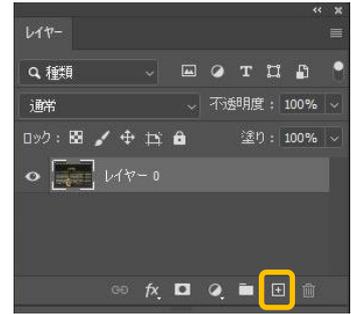
以前のプリセットを使用したい場合には、パネルメニューから【従来のシェイプとその他】を選択すると【従来のシェイプとその他】グループが追加され、以前のプリセットを使用できます。※画像は【シェイプ】パネルですが、ほかのパネルでも同様です。
 テキスト内、下記ページは以前のバージョンでの画面ショットです。実習で使用するサンプルが以前のプリセットになっている箇所もあります。必要に応じて、以前のプリセットをご使用ください。

18 ページ	【レイヤースタイル】ダイアログボックス
69・70 ページ	【スウォッチ】パネル
159 ページ	【パターンで塗りつぶし】ダイアログボックス
160 ページ	【スタイル】パネル
169 ページ	パターンピッカー
171 ページ	【グラデーションエディタ】ダイアログボックス
181 ページ	シェイプの塗り
183 ページ	カスタムシェイプピッカー

新規作成アイコンの変更

パネルやダイアログボックス内の新規作成アイコンが変更されました。

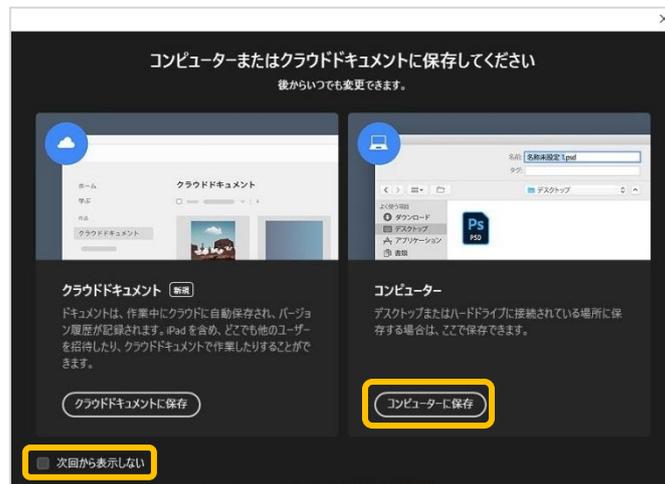
右の図は、[レイヤー] パネルの [新規レイヤーを作成] アイコンです。



1.1 料理をおいしく見せる/ファイルの保存 (テキスト 6 ページ)

編集したファイルの保存操作では、保存先を選択する画面が表示されるようになりました。

[コンピューターに保存] をクリックすると、使用しているパソコンに保存することができます。また、[コンピューターに保存] をクリックして表示されるダイアログボックスの名称が、[名前を付けて保存] から [別名で保存] ダイアログボックスに変更になりました。



なお、[次回から表示しない] にチェックを入れると、対策テキストと同じ挙動になります。

2.1 画面構成/メニューバー (テキスト 28 ページ)

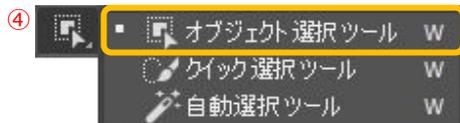
メニューバーに、Photoshop の拡張機能や新しい機能を追加できる [プラグイン] メニューが追加されました。

[プラグイン] メニュー → [プラグインを参照] を選択すると、無料のプラグインの一覧が表示され、インストール/アンインストールができます。必要な機能を追加して、Photoshop をカスタマイズすることができます。

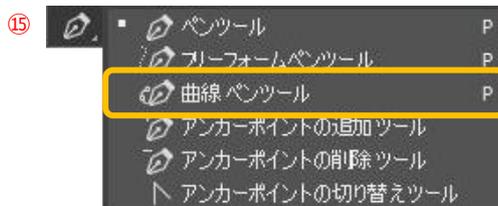


2.1 画面構成/ツールパネル (テキスト 30・31 ページ)

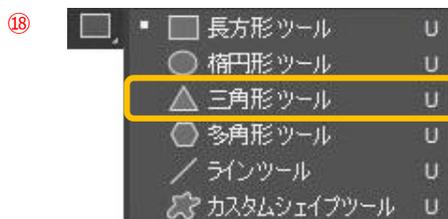
特定の被写体を選択する際に便利な [オブジェクト選択ツール] が追加されました。



簡単に曲線を描くことができる [曲線ペンツール] が追加されました。



シェイプツールに [三角形ツール] が追加されて、[角丸長方形ツール] が削除されました。



それぞれの使用方法は、本資料 8 ページ「5.1 選択ツール」、9 ページ「5.3 パス」、13 ページ「8.4 シェイプ」で説明します。

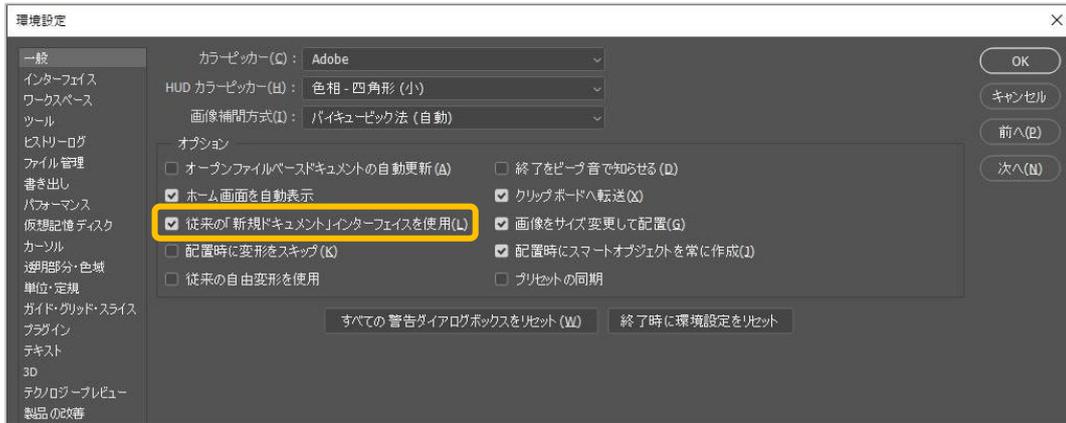
2.2 ドキュメントの作成 (テキスト 33 ページ)

新規ドキュメント作成画面が変更されました。



- ① 新規ドキュメントの使用用途を選択します
- ② 新規ドキュメントのサイズを選択します。
- ③ 新規ドキュメントの名前やサイズ、方向、解像度、カラーモードなどが指定できます。

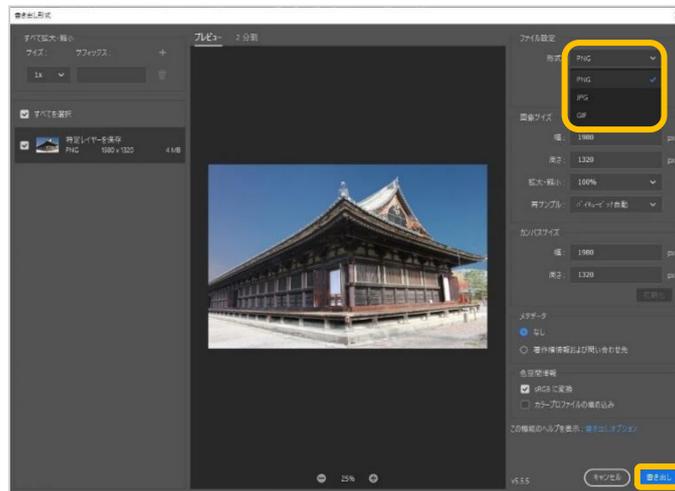
以前の新規ドキュメント画面を使用する場合には、[編集]メニュー→[環境設定]→[一般]を選択します。表示される[環境設定]ダイアログボックスで[従来の「新規ドキュメント」インターフェイスを使用]をオンにします。



なお、[環境設定]ダイアログボックスでは、このほかにもファイルの保存オプションやクイック書き出しのファイル形式や保存場所、使用する単位、ガイドやグリッドの色、テキスト挿入時のサンプル文字列表示の有無など、Photoshopを使用する際の設定を行うことができます。

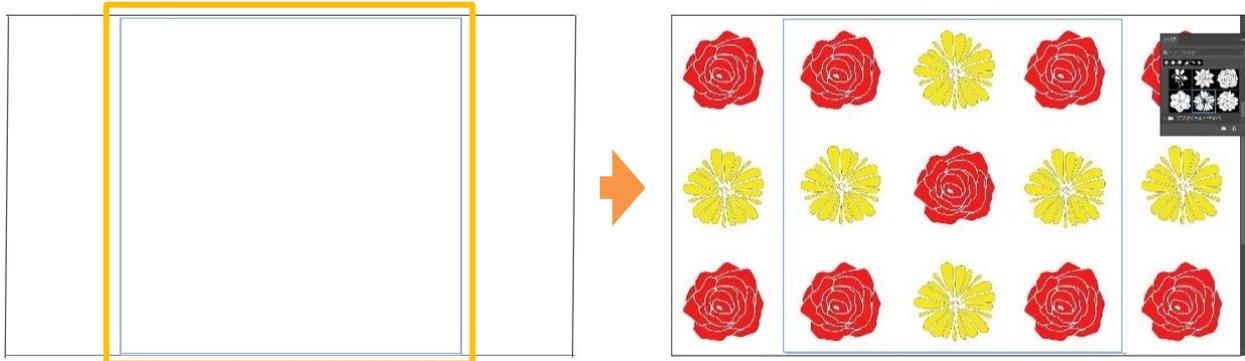
2.3 ファイル形式 (テキスト 38、213 ページ)

[書き出し形式]ダイアログボックスの[形式]ドロップダウンリストから「SVG」がなくなりました。SVG形式で保存するために[書き出し形式]ダイアログボックスを以前の表示に戻す場合は、[編集]メニュー→[環境設定]→[書き出し]を選択し、表示される[環境設定]ダイアログボックスで[従来の「書き出し形式」を使用]をオンにします。また、各種設定後に[書き出し]をクリックして表示されるダイアログボックスの名称が、[書き出し]から[名前を付けて保存]ダイアログボックスに変更になりました。



2.4 画面操作/ [表示] メニュー (テキスト 40 ページ)

[表示] メニューに、継ぎ目のない規則的なパターンを効率的に作成する [パターンプレビュー] の機能が追加されました。パターンを作成するには、[表示] メニュー→ [パターンプレビュー] を選択し、キャンバス中央に表示される正方形のエリアに任意のグラフィック要素を追加します。追加したグラフィックの移動、サイズ変更、回転はドラッグで視覚的に行うことができます。



ズームアウトすると、基準となる中央のパターンの上下左右に同一のパターンが繰り返されていることを確認できるため、全体のデザインを見ながらパターンの調整ができます。

作成したパターンは、[パターン] パネルにプリセットとして保存できますが、[スウォッチ] パネルには保存できません。



2.4 画面操作/アレンジ (テキスト 41 ページ)

[ウィンドウ] メニュー→ [アレンジ] で配置方法を選択するサブメニューの名前が変更されました。複数の画像ウィンドウの配置を変更する際に使用します。

CC15~CC20	CC21
すべてを左右に並べる	すべてを水平方向に並べる
すべてを上下に並べる	すべてを垂直方向に並べる
2 アップ-横	2 分割表示 - 水平方向
2 アップ-縦	2 分割表示 - 垂直方向
3 アップ-横	3 分割表示 - 水平方向
3 アップ-縦	3 分割表示 - 垂直方向
3 アップ-スタック	3 分割表示 - スタック
4 アップ	4 分割表示
6 アップ	6 分割表示

5.1 選択ツール (テキスト 90 ページ)

選択方法に、[被写体を選択]、[空を追加] が追加されました。

[選択範囲] メニュー→ [被写体を選択] をクリックすると、ファイル内のメインとなる被写体が自動的に選択されます。

選択後、ほかの選択ツールを使用して、選択範囲を追加したり、削除したりすることもできます。

右の図はファイルを開いた後、「被写体を選択」を使って赤いポスト部分だけが選択された状態です。



[選択範囲] メニュー→ [空を選択] をクリックすると、人工知能 Adobe Sensei が自動で認識して写真内の空の領域を選択します。選択範囲は、ほかの選択ツールを使用して、選択範囲を追加したり、削除したりすることもできます。

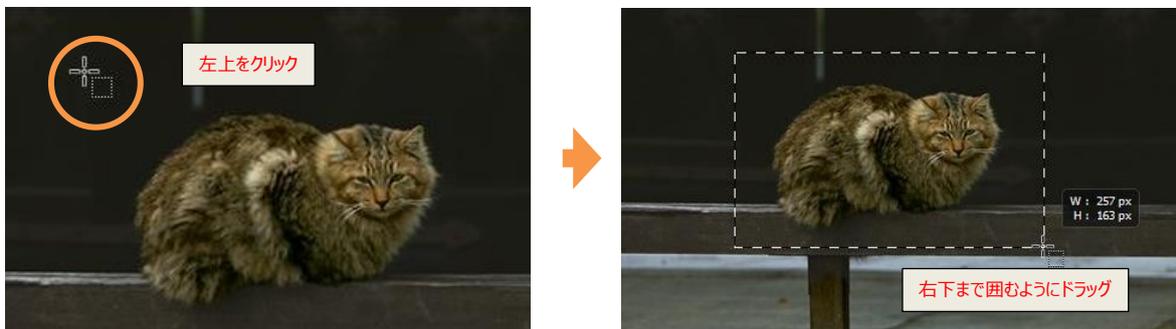
右の図はファイルを開いた後、「空を選択」を使って空の部分だけが選択された状態です。



ツールパネルには [オブジェクト選択ツール] が追加されました。複数の被写体が映っている場合、特定の被写体のみを選択するツールです。左の図は [被写体を選択] を使用して2匹の猫が選択された状態です。右の図は [オブジェクト選択ツール] を使用して1匹の猫を選択した状態です。



ツールパネルの [オブジェクト選択ツール] をクリックし、選択する被写体を囲むようにドラッグします。



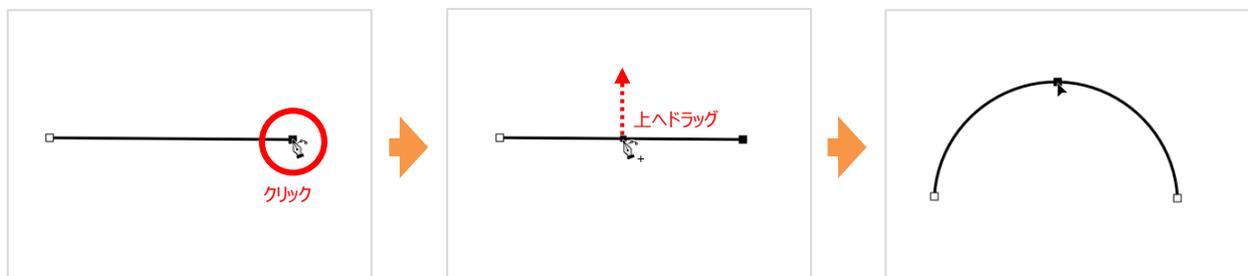
テキスト 99 ページ「選択範囲の変更/選択とマスク」でのツールパネルにも [オブジェクト選択ツール] が追加されています。

5.3 パス (テキスト 104 ページ)

ペンツールに [曲線ペンツール] が追加されました。

これまではペンツールを使用し、アンカーや方向線を調整して曲線を描いていましたが、曲線ペンツールを使用することで、簡単に曲線が描けるようになりました。

キャンバス上でクリックすると始点が置かれ、別の点をクリックすると2点間をつなぐ直線が引かれます。直線上の任意位置を上方向にドラッグすることで形状が変更され、曲線になります。

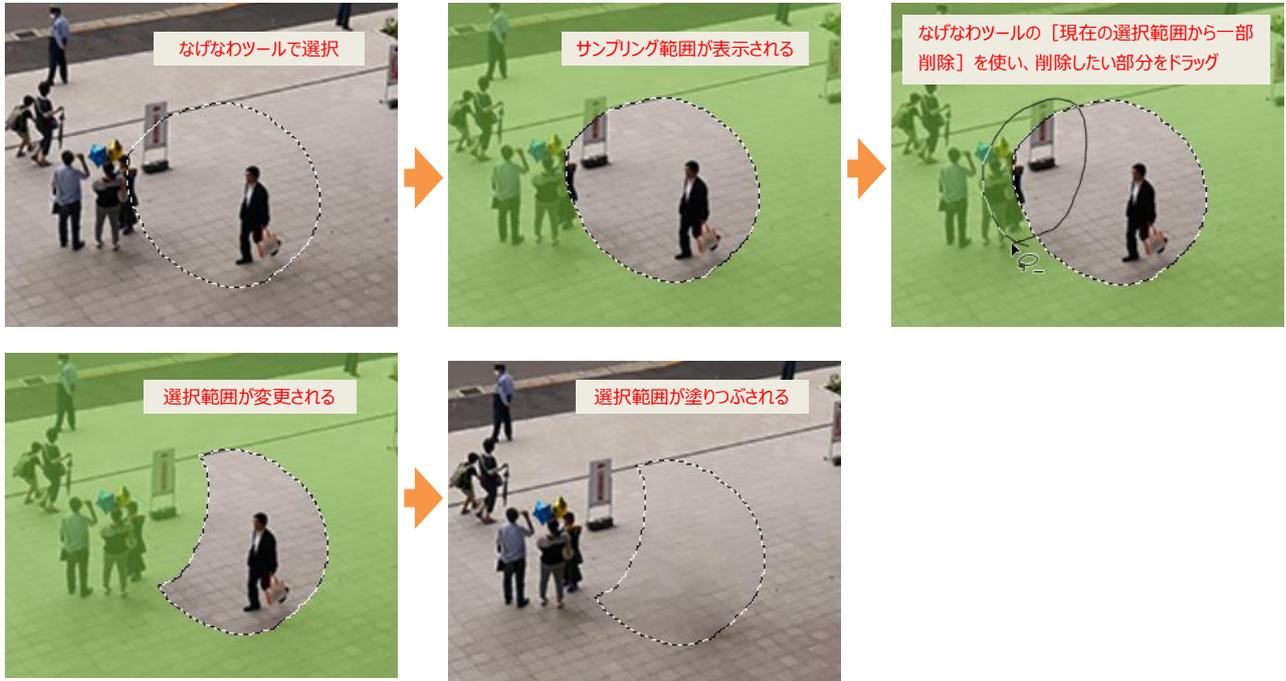


6.1 レタッチツール（テキスト 112 ページ）

「コンテンツに応じた塗りつぶし」を使用すると、修正後の状態をプレビューで確認しながら加工することができ、修正する範囲を追加・削除することも可能です。

写真から取り除きたい箇所を範囲選択し、[編集]メニュー→「コンテンツに応じた塗りつぶし」をクリックします。

写真内の選択範囲の周囲にサンプリング範囲（緑色部分）が表示され、左側に表示されているツールを使用して、選択範囲の追加・削除、サンプリング範囲の調整ができます。



画面右側にはプレビューとコンテンツに応じた塗りつぶしの設定画面が表示されます。

プレビュー画面を見ながら、塗りつぶしの設定で明るさとコントラストを適用する「カラー適用」やコンテンツを回転させる「回転適用」などが指定できます。

また、出力先は既定で「新規レイヤー」が選択されており、適用前のオリジナル画像を残すことができます。

6.2 変形ツール/空を置き換え (テキスト 117 ページ 編集メニュー)

編集方法に、写真の空を自由に置き換えることができる「空を置き換え」の機能が追加されました。

【編集】メニュー→【空を置き換え】を選択すると、人工知能 Adobe Sensei により空の領域が自動で選択され、【空を置き換え】ダイアログボックスで選択した空へ簡単に変更できます。元画像との境界の調整や、明るさなどの詳細設定も可能です。



6.2 変形ツール/拡大・縮小 (テキスト 117 ページ)

【編集】メニュー→【変形】→【拡大・縮小】よりコーナーポイントをドラッグして変形操作を行うと、初期設定で縦横比が固定されるようになりました。オプションバーの【縦横比を固定】を解除するか、Shift キーを押しながら操作すると、固定が解除されます。



対策テキストの説明と同じ挙動に戻す場合は、【編集】メニュー→【環境設定】→【一般】を選択し、表示される【環境設定】ダイアログボックスで【従来の自由変形を使用】をオンにします。

6.3 フィルター（テキスト 125 ページ）

人工知能 Adobe Sensei の技術で、人の顔や表情を自動で編集するなど、画像にさまざまな効果を適用する「ニューラルフィルター」の機能が追加されました。

「フィルター」メニュー→「ニューラルフィルター」を選択して「ニューラルフィルター」パネルを表示します。

「すべてのフィルター」タブで、フィルター名の横にある  をクリックし、クラウドから使用するフィルターをダウンロードします。ダウンロード後、フィルターをオンにすると画面右側で詳細な設定オプションを設定できます。

下図では「スマートポートレート」フィルターを適用して、被写体の女性の表情を笑顔に変更しました。ほかにも肌のシミを目立たないようにしたり、白黒写真を自然なカラーに変更したり、絵画の色彩やタッチを写真に適用したりするさまざまなフィルターが用意されています。

編集結果は、既定で「新規レイヤー」に出力されるため、簡単に編集前の状態に戻すことができます。



7.6 塗りつぶしレイヤー（テキスト 158 ページ）

Photoshop21.2以降、塗りつぶしレイヤーのパターンを回転できるようになりました。「レイヤー」メニュー→「新規塗りつぶしレイヤー」→「パターン」を選択して表示される「パターンで塗りつぶし」ダイアログボックス内でパターンの種類や角度、比率を設定します。



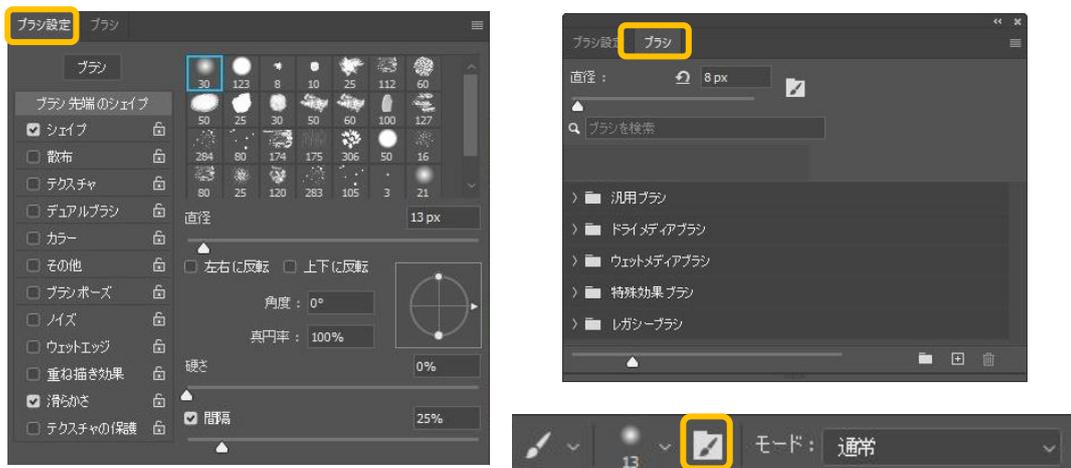
塗りつぶしレイヤー作成後に、パターンの拡大・縮小などの編集を行いたい場合は、塗りつぶしレイヤーを選択して「レイヤー」メニュー→「レイヤーオプション」を選択すると、「パターンで塗りつぶし」ダイアログボックスが表示され、編集することができます。

8.3 ブラシ (テキスト 174 ページ)

【ブラシプリセットピッカー】に表示されるブラシグループが新しくなりました。
 以前のバージョンで使用していたブラシグループを表示するには、【ブラシプリセットピッカー】の右上にある歯車をクリックし、表示されるメニューから【レガシーブラシ】を選択します。表示されるメッセージの【OK】ボタンをクリックすれば、ブラシグループのリストに【レガシーブラシ】が追加されます。



また、【ブラシ】パネルが【ブラシ設定】パネル、【ブラシプリセット】パネルが【ブラシ】パネルに名称変更され、オプションバーの【ブラシ設定パネルの表示を切り替え】アイコンも変更されました。



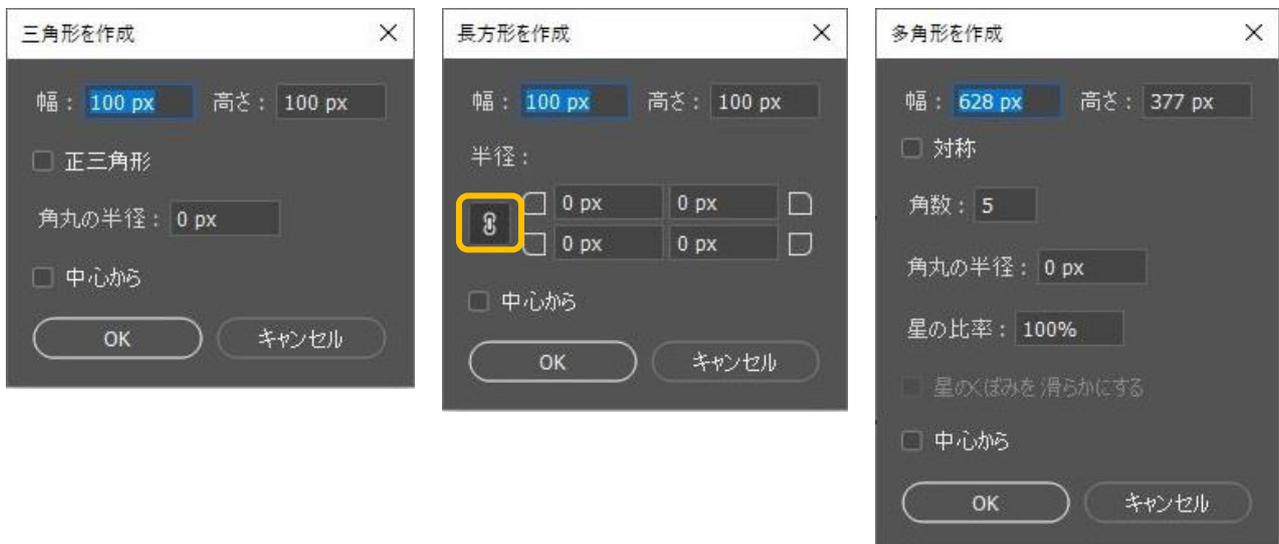
8.4 シェイプ (テキスト 182 ページ)

シェイプツールに「三角形ツール」が追加されました。「三角形ツール」をクリックしてオプションバーで塗りや線を設定し、マウスをドラッグすると三角形を描画します。Shift キーを押しながらドラッグすると正三角形が描画できます。

オプションバーには、「角の丸みの半径を設定」アイコンが追加されました。「三角形ツール」、「長方形ツール」、「多角形」ツールをクリックし、塗りや線と同様に角の丸みを設定できます。



キャンバス上をクリックすると表示されるダイアログボックスにも「角丸の半径」が追加され、「長方形を作成」ダイアログボックスと「多角形を作成」ダイアログボックスの設定項目も新しくなりました。「長方形を作成」ダイアログボックスの「角丸の半径値をリンク」を解除すると、任意の角のみを丸く設定することができます。



また、作成したシェイプの内側の円をクリックしてドラッグすると、角丸の半径を変更できます。「角丸長方形ツール」はなくなりましたが、長方形を描いてからドラッグ操作で、より簡単に、感覚的に作成できるようになりました。



CC ライブラリ (テキスト CC215 ページ)

【ライブラリ】パネルが【CC ライブラリ】パネルに名称変更されました。

ライブラリを作成するには、【CC ライブラリ】パネル内の【+新規ライブラリを作成】をクリックし、任意のライブラリ名を入力します。

ライブラリ作成後、パネル右下の【エレメントを追加】ボタンからコンテンツを追加します。表示中のファイル内で追加できるコンテンツが一覧表示されます。



クリエイティブ・コモンズ・ライセンス (CC ライセンス)

本来、動画・写真・音楽などの作品には著作権があり、無断で二次利用をすることは著作権違反となります。しかしながら、インターネットの普及により、作品によっては別サイトや SNS での二次利用からの利益増加を見込めるケースもあるため、「All rights reserved (著作権保持)」と「No rights reserved (著作権放棄)」の間となるライセンスとして「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス」が生まれました。作者は CC ライセンスを使用することで、著作権を保持した状態で作品を広めることができるようになりました。なお、Photoshop では【ファイル】→【ファイル情報】を選択して表示される画面内でファイルの著作権の状態を確認できます。

「クリエイティブ・コモンズ・ライセンス」は 4 種類の条件を示したアイコンがあり、それらを組み合わせた 6 つのライセンスで構成されます。

4 種類の条件 (アイコン)

	BY (表示)	作品のクレジットを表示すること
	NC (非営利)	営利目的での利用をしないこと
	ND (改変禁止)	元の作品を改変しないこと
	SA (継承)	元の作品と同じ組み合わせの CC ライセンスで公開すること

6つのライセンス

 <p>表示</p>	<p>原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示することを主な条件とし、改変はもちろん、営利目的での二次利用も許可される最も自由度の高い CC ライセンス</p>
 <p>表示-継承</p>	<p>原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示し、改変した場合には元の作品と同じ CC ライセンス（このライセンス）で公開することを主な条件に、営利目的での二次利用も許可される CC ライセンス</p>
 <p>表示-改変禁止</p>	<p>原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示し、かつ元の作品を改変しないことを主な条件に、営利目的での利用（転載、コピー、共有）が行える CC ライセンス</p>
 <p>表示-非営利</p>	<p>原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示し、かつ非営利目的であることを主な条件に、改変したり再配布したりすることができる CC ライセンス</p>
 <p>表示-非営利-継承</p>	<p>原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示し、かつ非営利目的に限り、また改変を行った際には元の作品と同じ組み合わせの CC ライセンスで公開することを主な条件に、改変したり再配布したりすることができる CC ライセンス</p>
 <p>表示-非営利-改変禁止</p>	<p>原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示し、かつ非営利目的であり、そして元の作品を改変しないことを主な条件に、作品を自由に再配布できる CC ライセンス</p>

引用元：データ・資料 | クリエイティブ・コモンズ・ジャパン (<https://creativecommons.jp/licenses/>)